

萩窪三丁目旧在民間信仰石造物



〔登録年月日〕平成七年一月二十九日
〔種別〕有形民俗文化財(信仰)
〔名称〕萩窪三丁目旧在民間信仰石造物
〔点数〕三基
〔所有者等〕個人
〔所在地等〕萩窪一―五六―一〇(田端神社内)

有形民俗文化財（信仰）

荻窪三丁目旧在民間信仰石造物

三基の石造物は、平成九年に田端神社に移されたが、かつては青梅街道の南約三〇〇mほどの十字路西北の角地に南向きに造立されていた。

三基のうち文化年間造立の地蔵菩薩塔には欠損がみられるが、他の二基の保存は良好である。

1、青面金剛立像塔

区内でも古い庚申塔で、青面金剛神像を表わすものとして初期のものである。享保六年（一七二一）の銘があり、舟型で頂部は山形に造り、下部は盛上げて三猿と岩座を表す。総高一四七・〇cmで塔身の最上部に日輪と月輪と瑞雲を配している。

2、地蔵菩薩立像塔

田端村の女講中一五人と檀講中四人の合同造立である。願意は記されていないが地蔵講かと思われる。寛政一〇年（一七九八）の銘がある総高一三・〇cmの本塔は、舟型で最下部には蓮座、頂部は山形というよりも隅丸形に近い。円満な姿の地蔵菩薩を半浮彫にした延命地蔵である。このころの田端村女講中の活動が推測できる。

3、地蔵菩薩立像塔

文化〇年（一八〇四〜一七）の銘のこの塔は、総高九二・〇cmで舟型、最下部は蓮座、最上部は山形に造っている。菩薩像は半浮彫で盛り上がっている。念仏供養のために女講中だ

けで造立されたものである。紀年銘は以前は読めたが、現調査では判読不能である。三基の民間信仰石造物は、この地域の民俗及び文化を示す資料として重要である。

【文化財所在地】

